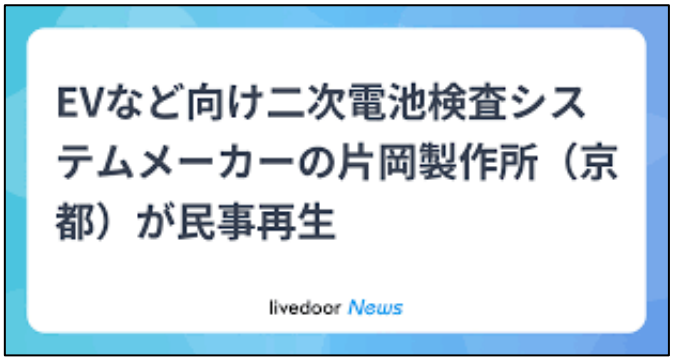
デジタル版
2025年
08月07日号
Vol. 170

成岡マネジメントオフィス事務所通信

NMO OfficeLetter

# 片岡製作所が民事再生を申請し倒産！

京都の中小企業の製造業では有名な、片岡製作所が7月25日民事再生を京都地方裁判所に適用を申請し監督命令を受け、倒産した。今後、事業は継続し、雇用は守りながら、スポンサーを募るなどをして、再建を図ることになる。地元では突然の申請報道に、驚きを隠せない。



＜解説＞片岡製作所は電池検査装置、レーザー検査装置のメーカーで知る人ぞ知る尖った有名な中小企業。負債増額は約100億円で、100億円を超える倒産はしばらくなかった。倒産原因はEV電池需要の失速。得意先であったスウェーデンの新興EV車載用電池企業が倒産したことで、約10億円の不良資産を抱えた。他にもEV電池需要の失速で、合計約30億円弱の在庫を抱え、資金繰りに窮していた。近年は、車載用電池の需要拡大を見越して、新たに本社前に研究棟を増設し、補助金を申請して工場新設の計画もあった。これらの積極拡大方針が、EV車載電池需要の失速で空回りした。今後は新たにスポンサーを募集し、事業と雇用の継続を図る。今回の民事再生倒産劇は、スポンサーが決まらない中での裁判所への申請であり、通常よくある事前にスポンサーを選定し、民事再生を申請する「プレパッケージ型」とは異なる。事前にスポンサーを選定するだけの時間の余裕がなかったとも言える。金融機関とは、当然融資に関する交渉を続けたはずだが、緊急融資の額が大きすぎて折り合えなかったのだろう。地元京都では、今回の倒産劇を驚きの印象で受け止めている。片岡製作所は、規模も事業内容もこの分野ではトップ企業との受け止めが一般的。この片岡製作所が民事再生を申請するという驚きの出来事が象徴するように、EV車載電池事業の今後の見通しは不透明だ。しかし出遅れると他社に出し抜かれる。投資が速すぎると今回のように空振りに終わるリスクがある。経営者の決断にかかっているが、片岡製作所の経営陣は京都でも産業界の重鎮だ。その経営陣でも見誤ることもある。製造業は、設備投資が先行するので、需要の見極めが非常に重要だ。しかし、今回のEV分野の失速は想像できなかった。スポンサーの登場が待たれる。

BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104 京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611 FAX:075-366-6100 info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.